

# 暦と星のエトセトラ

今日は空のお話。日が暮れると、かに座・ふし座・おとめ座など春の星座たちは天頂付近に、おりひめ星、彦星などの七夕の星たちは東の空に輝いています。6月8日には、立待月が木星、土星とともに空を渡

日食は「予測が可能なもの」だつたことがわかりますね。

西暦1701年2月8日（元禄14年1月1日）は、日の出の前から日食が始まっており、初日の出の太陽は三日月形だったとか。また、平家物



語や源平盛衰記の中の描写で、水島の合戦（西暦1183年11月17日..寿永2年閏10月1日）の最中に日食が起つたことが読み取れます。このときは平家が勝利していますが、これに陰陽寮が関係しているとかいないうか…。おや、紙面がつきるようだ。



日食は、太陽—月—地球と並ぶときに起こります。この時、月は新月。つまり、旧暦だと必ず「ついたち」日に日食が起こります。歴会館の展示に、正月一日に「日蝕皆既」と表記のある暦があります。昔から



「天明6年曆（部分）：暦会館提供」

暦と星で楽しみ隊 星空案内人 中塚一成 書